

## 神戸地域夢会議「高齢者が高齢者のお世話をする」

と き 平成 15 年 11 月 15 日 (土) 10:00~  
ところ 新長田ビブレホール 会議室 A  
参加人数 29 人

### 開催趣旨

神戸地域ビジョン委員会『高齢者が高齢者のお世話をする』グループの活動の一環として、専門家による指導・助言を得ながら、参加者それぞれの活動現場で抱える悩みや課題の解決法などの意見交換を通じて、お世話する側にもやさしい介護について考えます。

テーマ お世話する側にもやさしい介護の方法

講師 三輪 洋子さん (カネディアンヒル介護老人保健施設 副施設長・看護師)

### 講師のお話

お年寄りの身体的な機能低下、とくに皮膚が乾燥して弱くなることをふまえて介護するよう心がけなければなりません。

おむつを嫌がらず、正しい使用方法を身に付けましょう。ハンドクリームなど油脂成分をつけ、皮膚を保護するとおむつかぶれに効果的です。

尿パッドを利用する場合は、吸収できる量に注意し、できるだけたくさん吸えるものを利用しましょう。身体を動かしやすいシートや、杖、歩行器、車いすなどのさまざまな介護用品を利用し、介護する側の負担を減らしましょう。

介護老人保健施設で自立支援に携わってきましたが、リハビリによって元気になった例はたくさんあります。あきらめずに、自分はまだまだやれると考え直してほしいと思います。

社会的変化のため、隣近所の付き合いが希薄になり、引きこもりのお年寄りが増えています。本人が要介護者にならないよう努力すべきなのはもちろんのことですが、地域で支えあうことが大事と考えます。



### 意見交換

#### ・痴呆で記憶力がほとんどない人にどう対応していくべきか、苦慮している。

最近では医薬品もいろいろ出ているが、痴呆への対応として一番効果的なのはなんといっても介護するところでしょう。その人がどういう世界で生きているのかを理解し、俳優を演じるくらいのつもりでそれに合わせてゆく。頭ごなしに叱りつけたり否定したりするのは逆効果となります。

- ・排尿のあとすぐに水分補給をしようとする老人をよく見かけるが、これは必要なことでしょうか。

個人差が大きく、本人の癖にもよるでしょう。ただ、医学的指導としては、脳梗塞等を防止するためにも、水分をちゃんと取るようにとされています。1日トータル1リットル程度採れば問題はないと思います。

- ・尿がもれてシーツの洗濯をしないといけないことが多いのですが、尿パッドの使い方などに問題があるのでしょうか。

尿パッドをおむつカバーがわりに使う人が多いが、結局はこまめに換える必要があります。パッドを重ねすぎて無駄になっている例や、おむつを切ってしまうて使っている例もよく見かけます。また、おむつの当て方が悪いと漏れてしまいます。



#### 地域ビジョン委員の声

##### 「『高齢者が高齢者のお世話をする』に参加して」

糟谷 有彦

私は、「介護情報ネットワーク協会」を平成13年に設立し、自分が困った経験（8年間父の家族介護）を元に活動をしてきました。

平成15年度より神戸地域ビジョン委員会に参加していますが、お話の中で、高齢者のお世話をする方々自身の高齢化による体力の限界のお話が出、はたして現在行われている介護方法が正しいか？以前聞いた話の中で、日本で販売されている福祉機器で一番売れている商品が腰痛ベルトと聞いたことがあり、それは介護者が利用する商品であることを踏まえると、プロである介護従事者においても介護方法を研究する必要性を強く感じていたからです。

そこで、昨年11月15日に、以前からお知り合いの三輪講師（看護師）にお申し、神戸地域夢会議で講演をいただきました。三輪さんは、過去に福祉機器の販売員経験もあり、以前から研究されていた北欧の介護方法を、訪問看護や施設介護の中でも活用されておられます。

今後のビジョン委員会でも正しい介護方法の普及や家族介護者の心のケア等を討議し、このようなセミナーなども開催して行ければと思っております。